

筑波大学特別支援教育連携推進グループ

令和7年度現職教員研修の様子

(指導力向上研修・1か月)

令和7年度現職教員研修（指導力向上研修・1か月）について、三上真奈美先生（青森県立青森第一養護学校）が1か月の研修を修了されました。5月7日（水）から6月6日（金）の1か月間、茗荷谷の筑波大学東京キャンパスと、附属桐が丘特別支援学校で研修を受けられました。

三上先生の研修テーマは、「形を捉えたり、書いたりすることが苦手な児童に対する支援の方法について」「自分の身体を理解と姿勢管理について」です。附属桐が丘特別支援学校での実践実習では、特に国語科の授業づくりについて、小学部の児童を対象に取り組みました。

「形を捉えることが難しい児童に対する漢字の指導」をどのように考えたら良いのか、附属桐が丘特別支援学校の指導教員と熱心に意見交換をしながら、授業展開を考えて実習に臨まれました。

研究授業では、小学部2年生の国語の授業で「方」という漢字の指導を行いました。字の形を捉えることが難しい児童に対して、漢字の構成を部分ごとに分けながら指導を進め、「似ている漢字はあるかな。」と投げかけて、児童が自ら形を捉えようとする姿を大切にしながら工夫をされて授業を行いました。また、単元「言葉の仲間を探そう」では、児童一人一人の「休日の出来事」を短文にしたものを題材にして、まとまりのある言葉を考える学習をしました。研究授業後の検討会では、個人の実態を踏まえて必要なフィードバックを行うこと、言葉の学習を通じて児童のどのような姿を目指したいのかを明確にする必要性、思考を深め学び合う授業づくりのあり方等、多岐にわたって意見が交わされて活発な協議が行われました。

研修中は自立活動の指導法の演習や障害の重い子供の授業づくりの講義、連携推進グループ員による各障害種の講義や附属特別支援学校の授業参観等、多岐にわたるプログラムを受講されて充実した1か月を過ごされました。

これからの三上先生の御活躍を心より願っております。

授業実習の様子



研究授業に向けて



西垣校長の講話



修了証書授与

